

10月15日(土) 第4回検討委員会 開催

今回は、10月10日に開催された報告会で、またEメールなどで寄せられたご意見・ご質問の内容を踏まえ、

①再編統合実施時期、②再編統合校の設置場所について、前回に引き続き議論しました。

～ 主な議事 ～

- 報告会と寄せられたご意見について
- 若葉台西小学校の増築可能性について
- 幼児数を含めた通学距離のシミュレーションについて
- 再編統合実施時期、再編統合校の設置場所について



報告会と寄せられたご意見・ご質問について

報 告 会

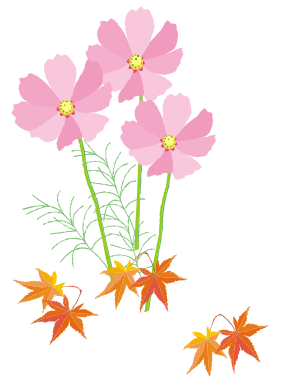
10月10日に若葉台東中学校で開催された「若葉台地区小・中学校再編検討委員会報告会」には、保護者36人、地域7人の参加がありました。この報告会では、検討委員会委員長からこれまでの検討経過の報告がされた後、第3回検討委員会開催後から報告会開催までの間に寄せられた2人の方からのご質問について回答がありました。また、その後の質疑応答の時間で、6人の方からご意見・ご質問がありました。

第3回検討委員会開催までは事務局にご意見は寄せられませんでした。9月16日の検討委員会ニュース第3号配布後から第4回検討委員会開催までに、延べ9人の方から事務局にご意見・ご質問が寄せられました。

今回の検討委員会では、寄せられたご意見・ご質問の内容すべてが報告され、これらを踏まえて議論を進めました。ご意見・ご質問の内容別件数は、次のとおりです。

委員会機能・運営に関するもの		4件
検討内容に関するもの	再編統合の実施時期	3件
	再編統合校の設置場所	6件
	再編統合校の教育内容	2件
	通学安全	2件
	耐震性	1件
	検討スケジュール	3件
その他要望		2件

※ 複数の内容に渡るご意見があるため、ご意見いただいた人数とは一致しません。



ご意見のうち、「再編統合校の教育内容」、「通学安全」に関するものについては、参考にしながら、今後検討を詰めていきます。再編統合の設置場所については、①増築の必要のない若葉台東小に設置すべきというご意見(2件)、②通学距離の観点、増築の必要性の観点から、若葉台西小・若葉台西中の設置には反対というご意見(1件)、③通学距離の観点から小学校は若葉台北小に、中学校は校舎の広さ等の観点から若葉台西小・若葉台西中を合体して中学校を設置すべきというご意見(1件)、④未就学児及び現在小中学校に子どもを通わせる保護者による投票で決めるべきというご意見(1件)、⑤地域毎にアンケート等を取るのではなく、あくまで検討委員会で客観的に決定すべきというご意見(1件)がありました。

いただいたご質問のうち、これまでの検討委員会ニュースや「みんなの若葉台」でお知らせしているもの以外の次の項目について、次のとおり検討委員会としての考えを追加説明します。

～ 第3回検討委員会で再編統合の実施時期は平成19年4月を目指すことを確認したことについて ～

若葉台地区内の小中学校は数年前から小規模化が進み、これに伴い、例えば部活動や学校行事、学校運営面で多くの課題を抱えるようになりました。このため、学校が地域に「まちと共に歩む学校づくり懇話会」などを通じ、小規模校の現状と課題を提示する中で、解決策としての再編統合がこの懇話会で協議されてきました。さらに、平成17年1月には、若葉台5校PTA連絡協議会が5校の保護者に対し、再編統合に関するアンケートを実施、小中学校ともに90%以上の保護者が再編統合に賛成であることが明らかとなりました。

このような経緯を経て、この検討委員会は今年5月に設置され、必要な事項について順次検討を進めてきています。第3回検討委員会では、今就学する児童生徒のためにも、現在の小中学校が抱える課題の解消を早期に図る必要があること、また検討委員会ニュース第1号でもお知らせしたとおり、今後も続く児童生徒数のさらなる減少傾向から、再編統合の実施時期は平成19年4月を目指すことを確認したものです。

～ 若葉台東中学校の耐震性について ～

検討委員会ニュース第3号でもお知らせしましたが、若葉台東中学校は耐震補強工事が必要です。これについて、「耐震補強が必要なほど老朽化しているのではないか」というご質問がありましたが、耐震性の判断は、主に建物の形状により判断するものであり、老朽化しているために耐震補強が必要であるという判断がされたものではありません。若葉台地区内すべての小中学校は築25年程度です。なお、仮に若葉台東中学校を再編統合後に使用するという結論が出れば、横浜市が毎年行っている耐震補強工事対象校に若葉台東中を加えることで、平成18年度における耐震補強工事の実施は可能と考えています。

若葉台西小学校の増築可能性について

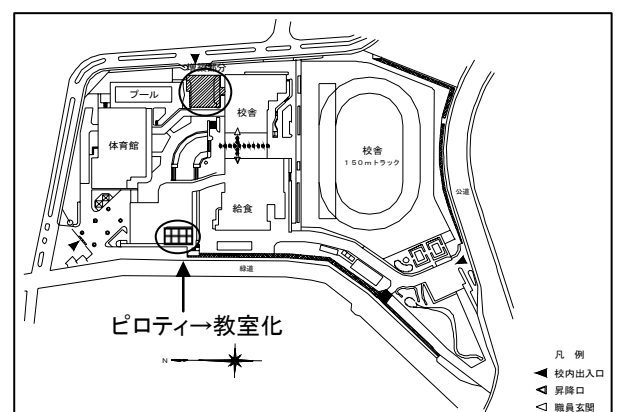
第3回検討委員会で、「再編統合校の設置場所について、新設校設置場所小委員会からの推薦（『新設の小学校は若葉台北小、新設の中学校は若葉台東中に設置する。』）を検討委員会での候補とするが、若葉台西小・若葉台西中の組合せについても、若葉台西小のコマ数の確保について事務局で再検討した後に、検討委員会で検討する。」ことが確認されました。

今回、若葉台西小学校の増築可能性について、事務局が再検討した結果を次のとおり報告しました。

【若葉台西小学校配置図】

○若葉台西小学校は、①北側プールと既存校舎棟の間に2階建ての棟を増築すること、②西側にあるピロティを教室化することにより、53コマ弱まで整備可能ですが、再編統合時に必要な58コマまでは確保できません。

○不足する教室は、多目的室1教室、コンピューター室及び第二音楽室が0.5コマずつ、視聴覚室、学校運営のために必要な倉庫など管理諸室です。



○：増築等可能部分

～ ご意見・ご質問 ～ (回答は事務局)

- この増築案だと、若葉台西小学校東側にある通用門は使用できなくなるのですか。
→通用門を工夫すれば、出入りは可能だと考えています。

若葉台地区内幼児数及び幼児数を含めた通学距離のシミュレーションについて

再編統合校の設置場所について若葉台地区内幼児数も含めた検討を行うため、事務局から、地区内の幼児数と、この幼児数を含めた通学距離のシミュレーションについて、次のとおり説明しました。

若葉台地区内幼児数について

各小中学校の通学区別幼児数は、次の表のとおりとなっています。

		住所	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小学校計	中学校計
東中	東小	一丁目	7	19	24	16	27	17	110	151
		二丁目1～6								
二丁目20～29										
西中	北小	二丁目7～19	4	10	6	8	10	3	41	322
		三丁目2～8	29	25	28	29	28	21	160	
	四丁目14～24									
	小計	33	35	34	37	38	24	201		
西小	三丁目1、9～15	22	25	27	30	26	32	162	473	
	四丁目1～13									
	四丁目25～36									
合計			62	79	85	83	91	73	473	473

※ 平成17年5月1日現在の数字です。



若葉台地区内幼児数を含めた通学距離のシミュレーションについて

若葉台地区内幼児数も踏まえ、どの学校に通うのが若葉台地区内すべての（あるいは今後の）児童生徒にとって、最も通学に係る負担が少ないかを検討しました。

【計算方法】

①比較時点を平成19年及び平成23年とし、その時点で小中学校に就学することとなる棟ごとの児童生徒数を抽出。

（平成19年時点での小学校児童は現在の4～9歳児、中学校生徒は現在の10～12歳児、平成23年時点での小学校児童は現在の0～5歳児、中学校生徒は現在の6～8歳児）

②各棟から各小中学校への距離（通学路を通った場合の距離）を地図ソフトで測定。

③各小中学校について、「①」×「②」を行い、その総和を比較。

→この総和が最も小さい学校が、若葉台地区内すべての児童生徒にとって最も通学にかかる負担の少ない学校という傾向にあると判断。

④念のため、「各棟の戸数」×「各棟から各小中学校への距離」の総和による比較も行った。

【結果】

○ 平成19年時点での「各小中学校までの距離」×「各棟児童・生徒数」の総和

東小	北小	西小	東中	西中
約363,000	約367,000	約382,000	約241,000	約257,000

○ 平成23年時点での「各小中学校までの距離」×「各棟児童・生徒数」の総和

東小	北小	西小	東中	西中
約310,000	約313,000	約321,000	約210,000	約211,000

○ 「各小中学校までの距離」×「各棟戸数」の総和

東小	北小	西小	東中	西中
約3,530,000	約3,650,000	約4,960,000	約3,810,000	約5,320,000

このシミュレーションの結果は多少の誤差が考えられるため、あくまでもある程度の傾向として捉えていますが、最も通学に係る負担の少ない順に、小学校は、①若葉台東小、②若葉台北小、③若葉台西小、中学校は、①若葉台東中、②若葉台西中 と考えられます。

～ ご意見・ご質問 ～（回答はすべて事務局）

□ 若葉台地区内の幼児数を見ると、6年後に若葉台東小に入学する児童は7人という状況が予想される。小規模校として抱える課題が今よりもより切実になるので、このような状況になる前に再編統合を実施してほしい。再編統合の実施時期は平成19年4月を希望します。

□ 第1回検討委員会で今後の児童生徒数の推移について説明があったとおり、若葉台地区の児童生徒数は今後ますます減少傾向にあり、中学校については単級となる可能性もあります。このような

状況から、再編統合はできるだけ早く実施すべきということで、最短である平成19年4月を目指すことが望ましいと考えています。さらに、設置場所小委員会では、再編統合の実施後、また児童生徒数が減少する傾向にあることから、再編統合実施後、通学区域の拡大についても検討していく必要があると考え、地の利の良さという観点も入れて検討してきました。

再編統合の実施時期及び再編統合校の設置場所について

第1回検討委員会からこれまで検討してきたこと、またいただいたご意見を踏まえ、検討委員会として、次のことを全会一致で確認しました。

再編統合の実施時期は、平成19年4月とする。

理 由

- ①現在小中学校は小規模校として多くの課題を抱えており、今後就学する児童生徒だけでなく、現在就学する児童生徒のためにも、課題の早期解消が必要であること
 - ②今後児童生徒数がさらに減少する傾向にあること
- 以上のことから、再編統合に必要な準備を平成18年度に行った上で、平成19年4月に再編統合を実施する。

再編統合校の設置場所は、小学校は若葉台北小学校、中学校は若葉台東中学校とする。

第3回検討委員会で、再編統合校の設置場所は、「若葉台北小・若葉台東中」、「若葉台西小・若葉台西中」の組合せに絞りましたので、この二つについてさらに検討を進め、次の条件を総合的に判断し、再編統合校の設置場所を決定しました。

再編統合校の適性の比較

		若葉台北小	若葉台東中	若葉台西小	若葉台西中
通学距離	15分未満で通学できる児童生徒数の割合	96.8%	90.1%	83.4%	81.1%
	未就学児を含む通学距離のシミュレーション	H19:約367,000 H23:約313,000	H19:約241,000 H23:約210,000	H19:約382,000 H23:約321,000	H19:約257,000 H23:約211,000
施設	敷地面積(m ²)	19,666	27,772	18,014	26,833
	施設整備の充足	増築により可能	内部改修により可能	増築しても不足	増築により可能
教 育		小中の連携が図りやすい。 (保育園の併置あり)		小中の連携が図りやすい。	

～ その他ご意見 ～

- 再編統合校新設に向けた施設整備は、新校が開校するまでに完了するよう全力を尽くしてほしい。

▽▽ 次回検討委員会の日程 ▽▽

平成17年11月20日（日）午後2時から 若葉台東中学校（視聴覚室）で開催します。

若葉台地区小・中学校再編検討委員会の経過、横浜市の基本方針等は

ホームページでもご覧いただけます。

- ・基本方針など：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>
- ・若葉台地区小・中学校再編検討委員会：

若葉台地区小・中学校再編検討委員会は、常に皆さまからのご意見をいただいております。FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

若葉台地区小・中学校校再編検討委員会事務局

横浜市教育委員会事務局 学校計画課 FAX：045-651-1417

Eメール：ky-wakabadai@city.yokohama.jp

電話：045-671-3252

